

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292600046		
法人名	倉石ハーネス株式会社		
事業所名	グループホームおおま荘		
所在地	青森県下北郡大間町大字大間字大間平38-519		
自己評価作成日	令和5年8月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和5年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設7年目となります。数年続いたコロナ感染症の制限も緩和となる中、まだまだ自由な行動は難しい現状にありますが、5類となって以降、段階的に面会の機会を設けてきました。ご利用者様がご家族様と過ごす短い時間ではありますが、見られる笑顔は特別なものと感じられます。まだまだいろいろな活動の制限が続いていますが、心の負担を少しでも減らし、日々過ごすことができるように工夫していきたいと思えます。健康面に関しても同様、医療機関と連携をとりながら、不安なく過ごしていただけるように努めていきたいと思えます。ご家族様、地域の皆様との交流に関しても、引き続き連絡、報告等でつながりを絶やさないで参りたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は理念に込められた意味を理解し、利用者一人ひとりが地域でどのように生活してきたかを考え、その生活を継続できるよう、日々の支援に取り組んでいる。  
ホームには、日常的に近隣住民から差し入れがある他、お祭りの際はホームの前まで神楽や神輿が来てくれる等、地域住民との交流を図っている。  
また、全職員がAED講習を受講して知識を習得し、利用者の緊急時対応できる体制を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にある言葉一つひとつの持つ意味を職員それぞれが考え、意識して行動するように努めながら、お互いに確認している。	ホーム独自の理念を作成し、玄関等に掲示している。管理者及び職員は日頃から理念に込められた意味を意識し、利用者一人ひとりが地域でどのように生活してきたかを考え、その生活を継続できるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまでの馴染みの店等、感染対策等に協力いただきながら、交流をつなげるように努めている。	日常的に家族や近隣住民から野菜の差し入れ等がある。また、地域の祭りの際はホームの前まで神楽や神輿が来てくれる等、日頃から地域との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	限られた数少ない機会の中ではあるが、できる限りの協力を努めることを伝えていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策の徹底に努めながら、これまで同様の会議の実施を進めている。また、地域の感染状況をしっかり把握し、状況に合わせた柔軟な開催に努めている。	運営推進会議には老人クラブの会長や民生委員、家族代表等の参加があり、ホームの取り組み状況等を報告している。また、メンバーからの様々な意見を基に、ホームのサービス向上に役立てていくように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に管理者が主体となり、随時、相談や情報交換を行い、協力関係の更なる構築に努めている。	日頃から、課題解決に向けて相談したり、情報提供を受ける等、行政との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の意思や行動を抑制しないよう、個々の状態を観察や把握し、尊重したケアに努めている。	身体拘束についてマニュアルを整備している他、定期的に勉強会を実施する等、職員が身体拘束の内容や弊害について理解を深められるように取り組んでいる。また、帰宅願望が強い利用者には職員が付き添って散歩する等、利用者個々状態に合わせて支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての職員の認識の確認に努め、実際の対応にも職員がお互いに確認し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修以外にも制度等を学ぶ機会を作り、理解や活用に活かすことができるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が契約に関する全般に関わり、対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、会話をしながら意見等を聞き出し、運営に反映することを心がけている。また、家族とのやり取りの中で、常に意見を求めることを意識している。自由に意見をいただけるよう、意見箱の設置をしている。	日頃から利用者とのコミュニケーションを大切に考え、職員から積極的に話しかけるようにしている。意見等を上手に表すことができない利用者については、日々のケアを通じて利用者の反応を見ながら、意見や不満等を察するように心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員全体会議、ユニット会議で意見を求め、意見を出す機会を設けている。ユニット内ではリアルタイムに意見交換をし、実践に即活かせるように努めている。職員皆が意見を出すことができる機会を作るように努めている。	毎月の会議で、新規利用者の受け入れについて職員の意見を聞く機会を設けている。また、ケア内容や業務等について、職員から出された様々な意見を検討する仕組みを整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一度の人事考課を行っていく中で、個々の意見や思いを聞くこととし、できる限りの対応や整備に取り組んでいく。日頃から、随時疑問には説明して理解を求め、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基本的な技術や対応等、その都度職員個々の観察に努め、個々に合わせたアドバイスや指導を行っている。また、研修等の検討も努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染対策の中で難しい現状ではあるが、同じグループでの勉強会や行事の機会を工夫、検討し、実施につなげることに努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のアセスメント等の確認、把握に努め、入居後の本人の観察をし、常に職員間での情報交換を行い、信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話報告等の際、聞き取りの時間を設け、信頼と協力関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設管理者が自宅を訪問し、本人や家族が必要とする事を聞き取り、アセスメントを作成して、必要とする支援ができるように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場であることを意識し、一緒に行える事を探り、生活の中で役割を見つけ、実践につなげている。本人の意思の尊重、自立支援を考え、実践につなげている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と施設が共に協力し合うことにつながるよう、家族の意向を尊重している。電話や来荘時の際の近況報告や依頼等で、関係を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出の制限はまだあるが、電話での交流は自由に行っている。テレビ電話設置の準備を行い、できる限り馴染みの関係が継続できるように取り組んでいる。	コロナ禍の中、玄関で面会できるような対応している他、ビデオ通話もできるよう、環境を整えている。また、家族や知人との電話の取り次ぎをする等、これまでの交流を継続できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中での作業や場面場面でのお互いの関係性を観察し、上手に関わりながら、孤立せずに生活できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設への入所で退居となった利用者に対しても、声をかけたり、気軽に来荘でき、電話相談にも応じることを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット管理者やケース担当職員が中心となり、利用者の言動等から思い、希望等を把握して、職員間での情報収集、情報交換をしている。	利用者との会話や表情を見て、気づいた事を職員同士で話し合い、利用者の希望や意向を把握するように努めている。また、家族や以前の担当ケアマネージャーからも情報収集し、より良いケアの実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで生活歴等の把握に努め、安心して生活できるように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や申し送り、連絡ノートの活用、生活に関わりを持つ中で心身状態の把握に努め、速やかな対応と自立支援を行っている。全職員が変化に気づき、見直しができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース担当者が毎月所見を記入している。また、本人や家族の意見、生活状況を確認し、プランの作成につなげている。変化あった時には速やかに検討、見直しをしている。	日々のケアを通じて、利用者の状況に変化がないか十分に観察し、記録をしている。また、毎月のユニット会議の中でカンファレンスを開催し、担当職員からの所見を基に全職員で検討し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践状況等をケース記録に記しているが、不十分なことが多く、統一されていないことがある。全職員が明確な記録ができるよう、助言や工夫の検討を進めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一つの対応だけにとらえず、実践の中で感じたり、考えた事を伝え合い、柔軟な取り組みにつなげていくように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の社会福祉協議会のケアマネジャーや地域包括支援センターの職員、老人クラブ等と連携を図っている。地域の方々との協力関係継続のため、できる限りの連絡やお知らせ等で、関係保持に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の医療機関と医療連携体制をとり、対応している。	利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように支援している他、協力医療機関の往診対応もある。週1回訪問看護師が訪問し、利用者の体調管理を行っている他、随時医療機関と情報交換や話し合いを行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状態を把握し、介護職員の気づきに対して訪問看護師より意見や指示をもらうよう、体制作りを継続している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書の作成、提出をしている。必要があれば、施設に連絡をいただくように伝えている。退院後の取り組みについても話し合い、意見をいただき、ケアできるように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師を含め、家族と一緒に話し合いの場を設け、必要に応じて話し合うようにしている。また、本人や家族の希望、要望を聞き入れ、施設での生活の中でできる事、できない事の理解、協力をお願いする内容を記録し、情報伝達をしている。	看取り介護は行ってはいないことと、日常の健康管理や急変時の対応等について入居時に説明し、ホームの方針を明確にしている。重度化や終末期の対応については、随時利用者や家族、医療機関、訪問看護師と話し合い、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設時より年1回は救急救命講習会を行っている。急変時に対応できるよう、随時の対応を必要に応じて確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災避難訓練を実施している。	年2回、消防の立ち合いのもと、利用者と一緒に避難訓練を行っている。また、敷地内に関連施設があり、災害時の協力体制を構築している他、災害発生時に備え、3日分程度の食料や飲料水、暖房器具等を用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーや尊厳について十分に考え、礼儀を忘れないよう、言葉がけにも注意している。	職員は利用者の羞恥心やプライバシーに配慮し、対応している。また、入職時、守秘義務や個人情報について順守することを誓約しており、日頃から利用者や家族の個人情報の取り扱いについて、十分に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向や言葉に耳を傾けながら、表情や仕草等から思いを感じ取り、自己決定できる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合にならないよう、できる限り希望に沿った支援を心がけており、できない場合ははっきりと伝えて理解を求め、次の支援につなげていくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院や理容院の利用に対応している。また、理容院に来荘いただき、散髪の協力もいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの嗜好の把握に努めている。個々の状況に合わせて、テーブル拭きや食器拭き、皮むき等をやっている。	利用者の食事嗜好や禁忌物を把握し、代替品で対応する等、全ての利用者に食事を楽しんでもらえるように配慮している。また、利用者の状況や意思を確認した上で、芋の皮むきや野菜の葉とり等、下拵えを職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量のチェックを行い、記録や確認をしながら、支援につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	モアブラシを使用し、口腔内の清潔保持に努めている。毎食後の口腔ケアを促し、個々に合わせた介助等を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、観察、把握しており、個々の排泄パターンに合わせて対応している。パットやオムツに関しては必要に応じて検討し、対応している。	排泄チェック表で個々の利用者の排泄パターンを把握し、事前誘導を行っている。また、排泄の自立に向けてユニット会議等で検討し、すぐに試してみる等、スピーディに対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活の中であつたり、場面を作る等して、体を動かすように心がけている。個々の状態に合わせた乳製品や水分を提供したり、排泄チェック表にて排便状況を確認し、下剤服用等で排便をコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	日々の入浴希望にはできるだけ対応し、拒否のある利用者には対応を工夫して、無理なく入浴できるように努めている。	一番風呂を希望する利用者に対し、入浴の順番をその都度替えて、臨機応変に対応している。また、入浴の拒否がある利用者については、職員を替えたり、声かけ等を工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動の工夫で、夜間の良眠につながるよう努めている。それぞれの状態に合わせ、活動や休息を見極め、対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	二人体制で確認(日付、名前、いつの服薬か)しており、飲み込むまで確認している。薬の効果等の確認、把握にも努め、適切に薬を保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の状態等を確認した上で作業等をお願いし、必要とされることを感じていただき、張り合いにしていけるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出が難しい利用者の状況を考慮し、少しの時間でも気分転換となるように工夫しながら、対応に努めている。	日頃から利用者との会話を通して、行きたい場所や思い出の場所を把握するように努めている。毎年、外出行事の計画を企画し、花見や紅葉見物、ドライブ等の外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設で管理している。本人の所持希望がある時には、家族と相談の上、少額を持っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話の使用は希望時に自由である。携帯電話の所持も、家族了解のもと行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けに行い、季節感を味わっていただけるように取り組んでいる。また、利用者と一緒に制作を進めた物を飾り、より楽しめるように配慮している。	ホームの各窓から日差しがたっぷりと入り、施設全体が明るく、ホールには大きなテーブルやソファが配置され、ゆったりとした家庭的な雰囲気である。利用者はテーブルを囲み、楽しく談笑する等、思い思いの場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食卓テーブルをホールに設置し、集う場が生活の場で自然にできるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、これまでに使い慣れている物や好みの物の持ち込みを呼びかけている。家族の写真やカレンダー等を貼り、穏やかに過ごせるように心がけている。	入居時に、愛用品や馴染みの物を持って来てもらうように働きかけており、家族写真や位牌等、様々な持ち込みがある。また、持ち込みが少ない場合は、誕生日に作成した色紙を飾る等して、居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせた居室の配置に取り組んでいる。場所等の混雑がないように印を付ける等、配慮をしている。		